



第7地区コミュニティ 輪投げ交流会2023 開催

第7地区コミュニティは、令和5年10月22日に古河市第七小学校体育館で「第7地区輪投げ交流会2023」を実施しました。

コミュニティでは初めての大きなイベントで、午前9時の開始前に、すでに十数名の参加者がつめかけるなど、12時まで、高齢者から親子連れ、幼児にいたるまで、およそ200人が参加し、盛り上がりました。

ゲームは高齢者部門(75歳以上)、一般部門(13~74歳)、小学生部門(6~12歳)の三部門に分かれて行いました。輪投げは6レーン設置、それぞれに輪

投げガイドが控えて、ルールの説明や輪の回収、スコアシートへの記入をしましたが、いちばん大切な役割は参加者に対する、「惜しいっ!」「もう少しだよ」「がんばって!」などと熱く、やさしい声掛けです。

参加した方の中には前もって自治会内で練習を積んでからゲームに臨んだ高齢者も。練習の成果が発揮でき、めでたく入賞を果たしたようです。また、お母さんと幼い子がいっしょに輪を投げ入れるほほえましい光景も見られました。



車椅子で参加した87歳の男性の方は、「普段、外出するのはデイサービスと自宅の往復だけなので、今日の輪投げ交流会を前からとても楽しみにしていました。投げてみて、緊張しましたがけれども、16点上げることができましたよ!」と満面の笑みを浮かべて話してくれました。

会場には見学席も設けられ、参加者はゲームを終えて友人や知人、家族たちと談笑するなど、交流会にふさわしいアットホームイベントとなりました。

主催した第7地区コミュニティの宗方隆会長は「初めての取り組みなので、どうなることかと不安でしたが、地域のみなさんの協力を得て、来年につながる手ごたえを感じました。」と語りました。

高齢者部門(75才~)				一般部門(13~74才)				小学生部門(6~12才)			
順位	氏名	点数	自治会	順位	氏名	点数	自治会	順位	氏名	点数	自治会
1	廣瀬健二	58	光陽台	1	諏訪孝俊	56	鴻巣二	1	並木彩翔	37	新久田
2	森田芳子	58	光陽台	2	片岡佳介	51	鴻巣一	2	高橋佑馬	34	鳥喰
3	岡田龍七	48	ひばりが丘	3	横山哲雄	47	鴻巣二	3	片岡花	33	鴻巣一
4	山口黎子	48	ひばりが丘	4	大河原彩華	47	あけぼの台	4	高橋円	31	新久田
5	石塚マサコ	48	ひばりが丘	5	桧原剛	46	鴻巣一	5	高橋仁	29	新久田
6	廣瀬保子	48	光陽台	6	高橋洋一郎	46	新久田	6	石谷勇樹	26	けやき平
7	澤崎壽幸	47	鴻巣二	7	谷島忠	45	鴻巣二	7	塚原美咲	25	けやき平
8	長島正義	44	けやき平	8	大西暢子	39	けやき平	8	柿沼瑠利子	24	鴻巣一
9	山中サク	43	鳥喰	9	渡辺敏江	38	ひばりが丘	9	飯田莉早	24	けやき平
10	相葉光輝	41	鴻巣二	10	小林恭子	38	光陽台	10	西野寿	23	けやき平

※入賞者の氏名は敬省略とし、11位以下の方々は省略させていただきます。

第7地区コミュニティ 各部会の取り組み

「カフェ鴻巣、オープン文化祭も同時開催

第1部会では令和4年10月にコミュニティカフェ「いこい」をオープンしましたが、一年を経過した5年10月8日に、鴻巣地区で新たに「カフェ鴻巣」を開きました。関係者を含めて80人ほどの地域の方々が参加しました。

イベントでは、地元のアマチュアバンドの演奏とともに高齢者男性による歌声も披露されて大いに盛り上がりました。同時に、鴻巣1丁目自治会と鴻巣2丁目自治会の協力により、集会所内で文化祭も実施しました。

これには、あじさい学園の利用者による絵画や古河幼稚園の園児の塗り絵、



集会所内文化祭での塗り絵作品

地元老人クラブも手芸作品を出品するなどさまざまな作品が展示され、見学する人々の目を引きつけていました。

また、輪投げ交流会2023(令和5年10月22日実施)は初回にもかかわらずほぼ成功しましたので、第二回はより内容を充実させたものにし、各地域で暮らす方々の交流を深めたいと思います。

災害時は自分と家族の命を守る行動を!

第7地区コミュニティの第2部会は「防犯・防災」と「児童の見守り」を行っています。

防犯・防災面では、いつかは来るであろう災害について、今回は古河市の防災出前講座を受講し、『我が家のマイ・タイムライン』を作る事が大切と知りました。そして水害の脅威が迫った時の参考にして欲しいことを記します。

<第1段階>

- ・窓ガラスにテープを貼る
- ・持病薬を用意
- ・持ち出す物を確認して、不足分は補充
- ・屋外の物が飛ばされないようにする
- ・現金を用意
- ・携帯電話の充電と電源の確認

・車のガソリンを確認する

<第2段階>

- ・近所に声掛け
- ・避難先を決める
- ・1階から2階に物を上げる
- ・自治会に連絡する

<第3段階>

- ・車に持ち出す物を積む
 - ・あわてずに避難する
- ※避難は危険が伴いますので安全安心な方法を選んで下さい。

市の防災課では水平避難を推し進めています。令和元年の台風19号の際の反省点として、利根川・渡良瀬川の水位の急激な上昇が想定外だったことを挙げています。

水害の脅威が迫った時、「自分と家族の命を守る」。それは他人の命を救うことにつながります。第7地区の住民の皆様が「逃げ遅れゼロ」を目指して行動しましょう。また、自分が動けない場合は誰かに助けを求めて下さい。

児童の見守り活動

児童の見守りについてはこれまで通り、地区内の交差点数か所ですら毎朝7時30分ごろから8時過ぎまで、第7地区コミュニティ役員・老人会・各自治会の交通安全委員・七小保護者の会の皆様と声を掛け合っています。

第7地区コミュニティ 参加組織紹介

子どもたちと保護者がいっしょに楽しみ、学び、成長へ

七子連(第七小学区子ども会育成会連絡協議会)は、七小学区の各子ども会の全体を統括し、古河市の子ども会活動への参加や独自の活動を「保護者の方々も一緒に楽しみ、学び、成長していくこと」を目標に取り組んでいます。

今年度は5月に鳥喰地区の五月女農園でいちご狩りを行いました。三和いこの家に集合し、散歩を兼ね五月女農園までウォーキング後、いちご狩りを楽しみました。今年はいちごの出来も良く大満足でした。また、7月には古河市子連主催の宿泊交流会(さしま少年自然の家)にも多くの子どもたちが参加し、ボランティアの学生や保護者の協力もあり、レクリエーション、キャンプファイヤー、カレーライス作り、焼プレートなどを楽しみました。特に、初めて会う他の学校の生徒と共同で色々なことに取り組み、仲良くなれたことは子どもたちにとって



他の学校の生徒と一緒に楽しんだ宿泊交流会

も貴重な体験になったことと思います。

今年度は、新型コロナウイルスの影響で3年間不参加だった古河提灯竿もみまつり(R5/12/2)に参加しました。七子連の支援団体である有志の会の協力もいただき、十分な準備をして、3年分の思いを込めて思い切り取り組みました。

安全で安心して暮らせる 富士見町自治会

富士見町自治会は、古河市内の中央より南西の国道354線(旧三国橋一大堤線)から南に位置しており、公方通り(旧横山一大山線)の西と東にあります。

富士見町自治会は、昭和45年11月19日に発足しました。当時の世帯数は、20世帯と示されています。古河市役所古河市庁舎にほど近く、古河公方公園(古河総合公園)は、市民の憩いの場所として親しまれています。また、ドラッグストアやカラオケ、スポーツジムなどもあり賑わいをみせています。

この地はもともと鴻巣の一部で、腰巻、源兵衛坂、原境、虚空蔵東などの地名で呼ばれ、さかのぼれば、嘉永年間(1850年頃)は下総国葛飾郡鴻巣村でありました。さらに、原始時代には海浸による浜辺であったことを原町南貝塚あるいは虚空蔵東貝塚の遺跡によって知るこ

こ数年、新型コロナの影響で会員数が激減(108人7月)し、現在、活動自体は以前の状況に戻りつつありますが、会員数は以前のままです。七子連としても、より多くの子ども達を笑顔にしたいと思いますので、皆様の新規入会をお待ちしております。

■新規入会への問い合わせは、庵原(いおはら):080-9091-5983 までお願いします。



富士見町内にある公方公園の富士見塚が出来ます。以上のことから比較的に高台で地盤も固く住みやすい環境にあると思います。

現在の会員数は40世帯(令和5年10月)で「安全で安心して暮らせる明るくて和やかな自治会」を念頭に組織しております。最近では若い世代の会員も若干ではありますが増えてきています。今後は会員の親睦を図る交流会が開催出来れば良いと思います。

福祉施設紹介

障がいのある方の社会参加を促進させる

自分らしく働ける場 “ショップあじさい”

あじさい学園は知的障がいのある方が自分らしく働ける場所として、1986年に開所しました。開所当初は30名の方が利用していましたが、現在では60名以上の方が自宅や隣接のグループホームから通って、仕事をしています。利用者さんが携わっている仕事の内容は、パンやクッキーの製造、調理、手刷り木版画カレンダー、刺し子ふきんの製作、ショップの接客となっています。このような仕事を通じて、障がいのある方の社会参加を促進するとともに地域福祉の向上に努めています。あじさい学園の自主製品から手作りの温かさや障がいのある方一人ひとりの個性を感じていただければと思います。ショップには、焼き立てのパンやクッキー、淹れたてのコーヒーとカレンダー・刺し子ふきんなどアート製品をご用意しています。

また、2024年にはライブ&レストラン「AJISAI HOUSE」の開所が予定されています。あじさい学園では障がいのある方が明るく元気に、前向きな姿勢で仕事をしています。ぜひ、ショップあじさいに足をお運びいただき、製品をお手に取ってください。皆様のご来店をお待ちしております。



「ショップあじさい」 営業時間：8：30～16：30
店休日：日曜日、祝日 住所：古河市鴻巣1111
電話：0280-48-0431

古河七小は地域とともに歩んで行きます

古河第七小学校は、今年創立50周年を迎えます。昨年7月に創立50周年プレ事業として、「スマイル」のテーマの基に、児童が考案したデザインで人文字を作り、航空写真を撮りました。子どもたちの笑顔がいっぱいです。また、50年間使われ色あせた校旗を新調し、まもなく迎える卒業式には真新しい校旗が体育館ステージに飾られ、卒業生を見守ります。今後もゲストティーチャーを招くなど創立50周年を盛り上げていきたいと思っています。

古河第七小学校は昭和50年に古河第四小学校鴻巣分校から設立され、昭和52年、新校舎の完成に伴い現在の古河市三和の地に移転しました。古河七小の校章の真ん中の「七」の文字は、最初の校舎が「鴻巣」にあったことから、

大空へ羽ばたくコウノトリがデザインされています。また、本校の所在地周辺は「新久田」「鳥喰」「坂間」の3地区に跨り、昭和48年から始まった開発を機に「三和」と名づけられました。さらに、私が古河三高の生徒(生徒会長でした)の頃にはなかった「けやき平」の街並みが広がり、地域は大きく発展しました。

古河七小の50年は地域の方々に支えられ、地域の発展とともに歩んできた歴史だと実感します。日頃から古河七小の教育活動にご理解・ご支援を頂いている保護者や

地域の皆様、第7地区コミュニティ各地区で立哨指導されている方々など心より深く感謝いたします。これからも古河七小をどうぞよろしくお願い申し上げます。

古河市立古河第七小学校長 三田 俊彦



児童が考案したデザインで人文字を作りました 撮影：(株)ひまわり空撮

第7地区コミュニティ その他の活動報告

● 活力ある生活範囲を広げる和楽会 <鴻巣老人クラブ>

新型コロナウイルス感染症の拡大がようやく落ち着いて、社会活動は感染以前のように正常化してきました。しかしながら、高齢者の方々にとってはまだまだ不安を拭えずに毎日過ごしているようです。一日も早く、不自由を感じることなく活発に、各種行事に参加できるようにになりたいものです。

さて、鴻巣老人クラブ「和楽会」は、毎月例会を開催しています。集いでは、最初に、古河市老人クラブ連合会の信条文を会員(会員数33人)と唱和します。大きな声を出して読み上げるので、お口の体操にもなっているのです。それから、簡単なストレッチをしたり、時には、カラオケに自慢ののどをふるわ



せています。また、月替わりに輪投げゲームで楽しんでいます。これからは、マット遊び(脳トレ運動のひとつ。四角いマスにボールを入れるゲーム)を取

● 今年も「マルシェけやき2023」を開催! <けやき平自治会>

今年は地元古河第三高校吹奏楽部による盛大なオープニング生演奏で始まり、キッチンカーによる「マルシェけやき」イベントも2回目ということで、近隣自治会の役員と地元小学校、中学校、高校の各校長の皆さまに参加頂き、周辺地域との交流を図ることもできました。

第三高校吹奏楽部の演奏では奏者の父兄にも鑑賞いただき、大いに盛り上がり、皆さまに感謝しております。

参加者は、700名以上にのぼりました。牛丼、ケバブサンド、ローストビーフ丼、だんご屋、上州鶏の山賊焼、あじさい学園による美味しい手作りパンやクッキー販売、かき氷など7業者に出店いただき、珍しいキッチンカーに子ども達は大喜びしていました。そして各々買い求めた食物をほおぼり、買い物も楽しむことができました。



金魚すくい、誰でも参加の輪投げゲーム、縁台将棋コーナーなどに子ども達も積極的に参加し、イベントでの三世交代交流を楽しんでいました。子ども達にとってきっと楽しい思い出造りができたかなと思います。また、自治会の会員同士の絆造りにお役に立てたと思います。

今後さらに企画を発展させ、近隣の皆さんと一緒に盛り上げる楽しいイベントに出来たらと思います。

光輝く高齢の皆様へ

高齢者の存在感が一段と高まっております

茨城県内の100歳以上の高齢者はなんと1,854人です!

現在、65歳以上の人は日本の総人口の3割。男女の平均寿命は80歳を超えており、100歳以上は9万2,100人超と驚きの数字です。生活環境の変化・改善と医療技術の進歩、それに医療体制が整備された結果、体力・気力が一層向上・充実したと思われれます。少子化が問題視されている今、シニア世代は国にとって大変重要な位置にあり、培った精神力と技術力の伝承者であります。これは80歳・90歳以上の方々も同感です。世の戦力と思われれます。

高齢者がやりがいを持って行動することは地区・地域の活性につながり、良い結果を生むこととなります。反面、高齢化による問題も多々あり、一人暮らしの方、病気を抱え外出が困難という人も年々増加している。そ

うした人を置き去りにしないことが重要課題と思い、みんなで協力連携し、高齢者たちの孤立をぜひなくすよう努力しましょう。

けやき平老人クラブ会長 長島 正義

◆ここで長生きされた著名人等の語録を集めてみました。(故人を含む)

「刺激的な日々と新しいものに興味を持つ」 瀬戸内寂聴(95歳時)

「旺盛な好奇心、にぎわいの所へ出向く」 蟹江さん・成田さん(106歳時)

「未だ生きてて音の美しさ、問題を見つけるかも、不思議な音楽の美しさを探求。ヒレ肉大好き」 室井摩耶子(現代音楽ピアニスト・102歳現役)

「いくつになっても身のまわりの家事は自分でやる。友人との会話・人とのつながりが楽しい」

長寿の街(京丹後市)からの元気な秘訣

(以上 NHKドキュメント20min・テレビ朝日100歳に聞く・BS5贈り物等を参考)

編集後記

コミュニティカフェの集いで楽しんでいる輪投げゲームが、輪投げ交流会2023開催へとステップアップ。大人も子どもたちもはつらつとプレーできました。さて、今年は第七小学校創立50周年にあたります。三田校長先生は「地域の方々を支えられ」た50年と住民の皆さんへ感謝を申し上げています。これから先、コミュニティと教育現場の共同歩調がより重要になってくるように思います。

【編集委員】長島正義、山口義美、桜井勝治、大澤一男